

大阪医科大学(後期) 英語

2019年3月10日実施

問題 I

- (1) 彼は1マイルあたり7ドルで、家の近くの通りや公園を人々が散歩する際のお供をしている。彼は犬の散歩に代わるサービスを提供する草分けであり、このサービスにはリードは必要なく、歩き、話をし、そしてとりわけ耳を傾ける能力さえあればよいのだ。
- (2) マッカーシーは孤独な人々、好奇心旺盛な人々、新しいもの好きの人々から何百ものメールを受け取っているが、これらの人々は皆一緒に歩いてくれる見ず知らずの人間を求めているのだ。
- (3) 例えば、道が混んでいることについて不平をこぼすにしても、ソーシャル・メディアに投稿するより、生きた人間の耳に届くほうが気分はよいものである。
- (4) マッカーシーはもともとアトランタ出身であるが、俳優業にも本気で打ち込んでいるので、自分の実際の年齢を明かそうとはせず、30代であるとしか答えない。10年前にロサンゼルスに拠点を移して以来、端役にはありついているが、大役に一度も抜擢されたことはない。

問題 II

- (1) 初めての通院時にこれらの印象はより強固になる。詮索したがる患者によって意図的にそうされることもあれば、他愛もない会話をしながら意識せずにそうなることもある。
- (2) しかしながら医師はまた患者の中に勇気と受容、諦念と決意を見出し、そして人が生きていれば避けては通れない生命の危機とともに立ち会うという特権を与えられてもいるのだ。
- (3) 重篤な、あるいは末期の病気が問題となる場合、医師は数日、数週間、あるいは数カ月の間、患者にとって親密な、家族同然の存在となるかもしれず、そしてまた問題が収まれば彼らの生活から遠ざかるのである。

問題 III

- (1) But now, it has been revealed that children, through playing, can spontaneously improvise some unstructured musical pieces even without formal music instruction.
- (2) All children have the desire and ability to experiment with instruments and their own voices to create music.
- (3) Adults can best support their children's musical learning by behaving not as authoritative teachers but as playmates or co-learners.

講評

- I [和訳] : (標準) : 「散歩のお供」という一風変わった新しいサービスについて書かれた英文。内容の理解度で大きく差がつく。下線部だけ読んでも意味の通る訳を作ることはできない。
- II [和訳] : (やや易) : 「医師と患者の関係性」について書かれた英文。医学部入試ではよく見かける話題である。日本語表現には工夫が必要なところがある。
- III [英訳] : (やや易) : 構造は非常にやさしいので、単語レベルでどれだけ減点を防げるかがポイントとなる。

大問構成は例年通り 3 題。説明問題は出題されず、大問 I・II ともに下線部和訳のみとなった。全体としてはやや易化。目標は 70%

医学部進学予備校

メビオ

〒540-0033 大阪市中央区石町2-3-12 ベルヴォア天満橋

 **0120-146-156**

<https://www.mebio.co.jp/>

M e B i o
Scholastics 